

本校の研究について

1 研究主題 豊かな未来を創る

2 研究主題について

21世紀を迎え、時代はますます激動の時代となりつつあり、これからの社会を生きる子どもたちに、大きな期待が寄せられている。そこに必要なものは、単なる知識の量でなくそれぞれの夢を実現するための豊かで実践的な知識であり、また夢の実現を可能にする強い意志と人間性である。人間性豊かな子どもの育成があって、豊かな社会が実現され、そして豊かな未来が創られると考えている。

「豊かな未来を創る」とは

現代の子どもたちの周りには、物があふれている。物の豊かさについては、大人だけでなく、子どもたちも実感できる世の中になって久しい。

しかし、世の中が豊かになっていくにつれて、いろいろな社会問題もふえてきている。少子化、高齢化、環境問題、犯罪の低年齢化など、物が豊かでなかった時代には想像もできなかった課題が生まれている。

このような現実をふまえ、「豊かな未来」とはなにかと考えるときに、心の豊かさ抜きには考えられない。相手を思いやり、支え合う心の温かさや、情緒豊かに素直に感動する心を大切に、さらにそれらが発揮できる子どもに育てていくことが大切であろう。

豊かな心と実践力を持った人間性豊かな子どもを育てることが「豊かな未来」につながると考えている。豊かな人間性は「人とかかわる」中で培われるところが大きい。人とかかわることによって心が育ち、社会性がはぐくまれ実践力が育っていくであろう。

この数十年間で、子どもたちを取り巻く環境は劇的に変化している。異年齢集団や仲間集団を形成しにくく、人とかかわる場が減少してきている。また、学校外で活動する場が少なくなり、多様なコミュニケーションの機会も減少している。こうした中で「人とかかわる力」を育成することが大切にされなければならない。

本校では、こうした考えに立って、「人とかかわる力」を中心に置いた教育活動を大切にしている。人とかかわる中で、心の豊かさとしてそれを発揮する確かな判断力や実践力を身に付けることによって、「豊かな未来を創る」子どもを育成することができると考えている。

3 研究内容（本校のめざすところ）

（1）幼・小連携教育

幼稚園と小学校の子どもたちのかかわりが深まることで、幼稚園から小学校への円滑な接続が図られる。人とかかわる力が十分身に付いている子どもは、自分の思いや考えをしっかりと表現することができたり、相手の思いをしっかりと受け止め、人を思いやる言動ができたりする。

家庭や地域社会の中で、人とかかわる機会が減っている今の子どもたちに、幼稚園と小学校、小学校の異学年等の交流活動を工夫する中で、人とかかわる力をさらに豊かにさせたいと考えた。人と直接的にかかわることによって、子どもたちが互いに学び合い、成長しあう姿を大切にしていきたい。

（平成14・15年度 文部科学省指定 幼・小連携に関する総合的調査研究事業研究協力校）

(2) 情報教育

近年，社会全体は急激な情報化へと進展している。不特定多数のものが，双方向に文字・音声・画像等の情報を融合して交換することが可能になってきている。

子どもたちを取り巻く学習環境も飛躍的に変化してきている。コンピュータをはじめとするIT機器を学習用具として取り入れることが一般的になってきている。しかし，使い方を誤れば，便利なはずのIT機器に人が使われる，振り回されるといった状況に陥る可能性もある。

IT機器は道具の一つであり，その道具の向こうには自分の思いを伝えたい相手が存在することを子どもたちにしっかり理解させたい。IT機器を使うことによって自分の思いを正しく伝え，相手の思いをしっかりと受け止めることによって，人とかかわりはさらに深く，広くなるであろう。

（ブロードバンド・スクール実証実験校・学校情報公開システム(e!Communications)実証実験校）
（平成16年度 小教研情報教育部会県大会 会場校）

(3) 人権・同和教育

岡山市は学校教育における人権同和教育の大きな柱として，「人権学習」「自立支援」「人間関係づくり」をあげている。つまり，人とかかわりを豊かにすることは，人権同和教育を推進する上で不可欠であるといえる。

人とかかわることによって，コミュニケーション能力が身に付いたり仲間としての連帯感，規範意識が育ったりするだけでなく，自尊感情が育ち，お互いの人権を尊重しようという態度につながると考えた。

（平成15年度 岡山市小教研人権同和教育部会 実践発表校）

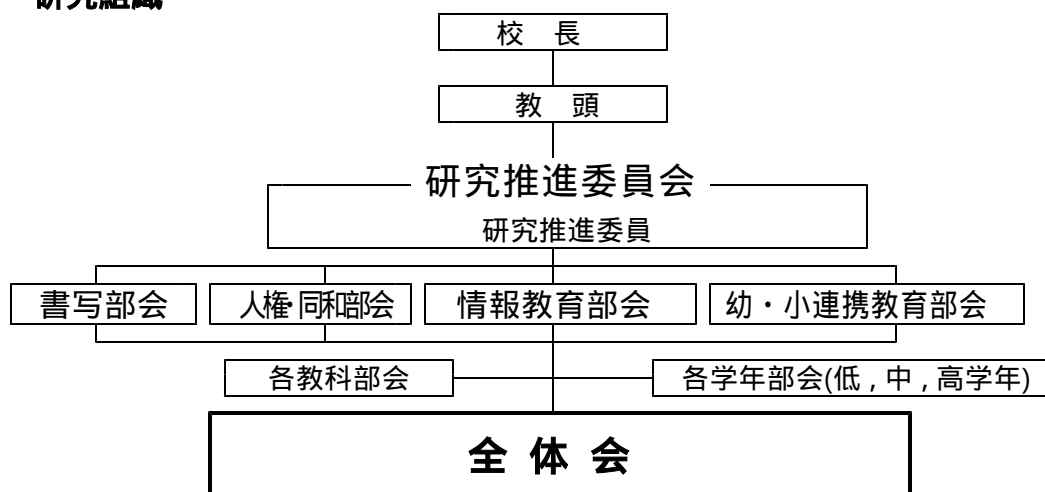
(4) 書写教育

自分の思いを相手に伝える手段のひとつとして，「文字を書く」ことがある。伝えたい内容や伝えたい相手がはっきりしていると，「文字を書く」めあてが明確になり，書く喜びも増してくるであろう。また，相手に伝わりやすい書き方を工夫することにもつながるであろう。

表現方法として，近年は電話のような音声によるものやメールのような機械文字によるものが増えているが，手書きならではのよさをしっかりと体感させたい。自分の思いや願いを込めた字を書くことを繰り返し学習していくうちに，人とかかわる力が確実に身に付いていくであろう。

（平成15年度 岡山市習字教育研究会 書写教育研究会 会場校）

4 研究組織



書写教育について

1 研究主題

書く楽しさや喜びを味わい，生活に生かす書写学習

生活科と関連した学習を通して

2 研究主題について

本校では、「豊かな未来を創る」を研究主題として掲げ、「人とのかかわり」を中心に置いた教育活動に取り組んでいる。

書写学習の中で、「人とのかかわり」を考えると、文字や言葉の役割を十分に生かすことが大切である。文字や言葉を大切に、互いの思いを適切に伝え合う活動を通して、現代社会において希薄になりがちな人間関係を生涯にわたって深めていこうとする態度を育てていきたい。

また、文字を通して「思い」を伝えることは、コンピュータの普及により、より簡単に速くできるようになっている。本校でも、情報教育に取り組んでおり、「思い」を伝えるひとつの手段として、コンピュータを有効に使う学習も進めてきている。しかし、手書きの文字には、書いた文字の中に、伝える人の「真心」がそのまま込められるものであり、「思い」を相手により深く伝えることができるものである。そのような、手書きの文字のすばらしさも、書写学習を通して理解してほしいと考える。

そこで、本校では、国語科書写における研究主題を「書く楽しさや喜びを味わい，生活に生かす書写学習」と設定した。「人とかわる」活動を多く取り入れるために、学習の課題を、教科書だけでなく、生活科など他の教科等との関連の中から多く見いだしていきたい。そして、自ら課題をもち、その課題に向かって自分なりの解決方法で主体的に取り組んでいく活動を通して、「文字を正しく整えて書く」という基礎基本を十分ふまえた課題解決学習に取り組んでいきたい。子どもたちの「伝えたい」「書きたい」という思いや、学習によって身につけた「分かった」「書けた」という充実感や満足感を生かして、他教科に発展したり、自分の日常生活に生かしたりするという活動に広げていきたい。

(1)「書く喜びや楽しさ」とは、

「書く」という活動に楽しさや喜びを見いだすためには、「人とのかかわり」が不可欠である。文字や言葉は、自分の思いを相手に伝えるという大切な役割をもっている。自分が書いた文字に思いを込めて相手に伝えるという活動は、書く意欲を高めるものである。そして、書いたものが相手に伝わり、認められることで、書く喜びを味わうことができ、また書いてみようという意欲もさらに高まっていくと考える。

また、書写の学習過程の中で、自分のめあてをしっかりともち、めあて達成のために進んで練習するという主体的な活動は、「文字を書く」楽しさにつながってくる。また、自分のがんばりを友だちや先生に認めてもらうという経験を多く積み重ねていくことを通して、「文字を書く」こと、そして学習することの喜びを味わうことができると考える。

(2)「生活に生かす」とは、

本校では、児童が書写の学習で学んだことを主体的に他の教科・領域の学習や日常生活の中に生かしていくことをねらっている。生活科など、他の教科等と関連づけ、手紙や招待状など、文字を通して「人とのかかわり」のできる活動を多く取り入れることで、「人に伝える」というめあてをもつことができ、児童が「文字を正しく整えて書く」こ

とをより強く意識することができると思う。そして、自分の「思い」を伝えることができたという充実感や満足感を味わう経験を重ねることにより、文字を進んで書いて生活に生かしていこうという態度が育っていくと考える。

3 研究の視点

研究主題「書く楽しさや喜びを味わい、生活に生かす書写学習」にせまるために、以下の3つの視点を中心に研究を進めた。

- | | |
|-----|-----------------------|
| 視点1 | 基礎基本の定着 |
| 視点2 | 自ら課題をもち解決しようとする主体的な学習 |
| 視点3 | 生活に生かす書写学習 |

4 研究の内容

<視点1 基礎基本の定着>

「低学年における書写学習の基礎基本」について、次のように考えた。

- | |
|---|
| 姿勢や用具の持ち方を正しくして書く。
文字の形に注意して、筆順にそって丁寧に書く。
点画の長短、方向などに注意して、文字を正しく書く。 |
|---|

その基礎基本を定着できるようにするために、次のような手だてを考えた。

動作化と音声化

○書写たいそう

学習の始めに、「足はペタペタ、背筋はピン、おなかと背中にグー1つ」などと声をかけて確認し、正しい姿勢で書こうという意識が高まるようにする。

○空書や筆順指導

腕を大きく動かして空書きをすることで、点画の長短、方向を体で意識できるようにする。また、筆順指導の際は、かけ声をかけながら行い、筆順がはっきりと確かめられるようにする。

掲示の工夫

○姿勢の図の掲示

教室前面に大きく姿勢の図を掲示することにより、書写の時間だけでなく、いつも正しい姿勢を意識して、学習できるようにする。

○鉛筆の持ち方の図の掲示

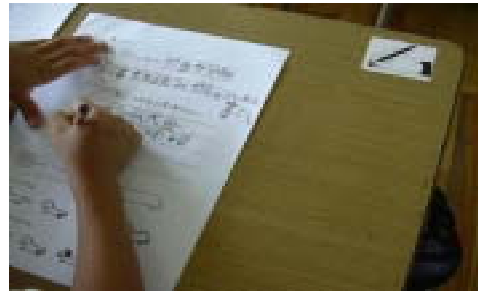
正しい鉛筆の持ち方をいつも手元で確認できるように、机の右隅に正しい鉛筆の持ち方の図を貼っておく。

練習コーナーの工夫

○めあてに沿った練習コーナーの設置

児童一人ひとりのめあてを把握し、どの児童にもめあてを意識しながら練習できるような練習コーナーを設置する。操作活動では、さまざまな道具を工夫して用意

し、文字の形や点画を意識しながら練習できるようにする。また、練習用紙などは個々のめあてに対応したものを多数用意し、めあてに沿って段階的に練習したり、多くの練習量を確保したりできるようにする。



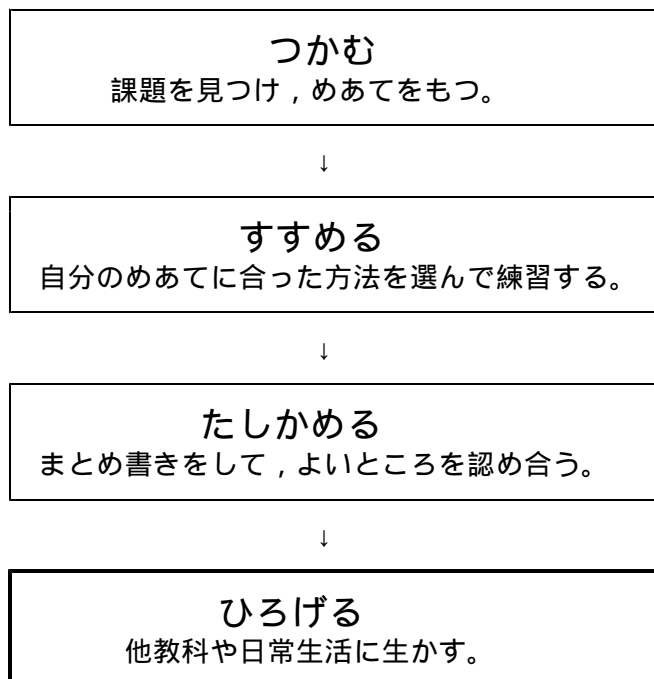
<視点2 自ら課題をもち解決しようとする主体的な学習>

「書写学習における主体的な学習」について、次のように考えた。

児童一人ひとりが、自分のめあてをしっかりとつかみ、
学習の見通しをもちながら、
自分の課題に進んで取り組む学習

児童一人ひとりが自分のめあてをしっかりともち、そのめあてに向かって進んで学習することができるよう、次のような手だてを考えた。

学習過程の工夫・明確化



書写の学習が、児童の主体的な活動を中心とした課題解決学習となるように、学習過程を工夫した。また、学習過程を、「つかむ」「すすめる」「たしかめる」「ひろげる」

に分け，パターン化することにより，児童の意識の流れを明確にして，一人ひとりが見通しをもって学習できるようにした。

課題意識をもつ工夫

○キャラクターの使用

学習の課題に対応したキャラクターを考え，児童が楽しくめあてをもち，学習活動を進めることができるようにする。



○お手本と比べる

ただ，目で見て比べるだけでなく，スケール等の用具を使い，比べる視点がはっきりわかるように工夫する。



練習コーナーの工夫

○さまざまな用具を用いた練習の場

児童が意欲をもって練習できるように，練習の場にさまざまな用具・用紙を用意し，多くの場を設定する。

小黒板によるチョーク書きコーナー 分解文字コーナー 砂場コーナー モール，粘土コーナー 練習用紙コーナー	など
--	----

○コーナー分け

個々のめあてに対応した練習コーナーを選びやすくするために，コーナーをめあてに対応したものとする。コーナーの名前は用具名ではなく，めあてに対応したコーナー名とする。また，キャラクター等を用いてコーナーを案内し，わかりやすく楽しく自分のめあてに合ったコーナーを選ぶことができるようにする。

字形コーナー （おれ，まがり，とめ，はらい，長短，方向，外形，中心など） 筆順コーナー 練習コーナー	など
---	----



評価の工夫

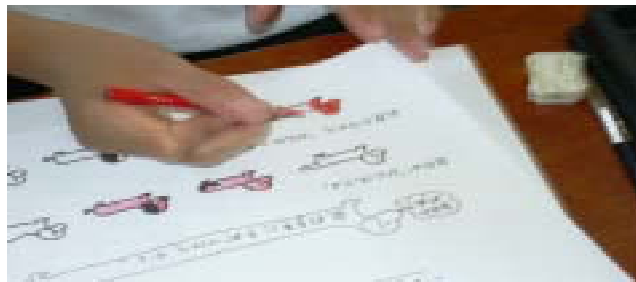
○学習カードの工夫

自分のめあてやがんばりがはっきりとわかるような学習カードを工夫する。

まとめ書きのときには，自分のがんばったところにシールを貼ることにより，上達したうれしさを味わうことができるようにする。また，友だちのがんばったところも見つけ，シールを貼ることにより，友だちのがんばりに気づき，お互いの努力を認め合うことができるようにする。

めあての反省も，キャラクターなどにわかりやすく評価の観点を表示し，色をぬったり印をつけたりすることで，楽しくはっきりと自己評価できるようにする。

学習カードを充実することにより，次時の学習意欲につなげたり，日常の書写活動に生かしたりすることができるようにする。



<視点3 生活に生かす書写学習>

書写で学習したことを他の教科等の学習や日常生活に生かすことは、児童の文字に対する意識を高め、正しく整った字を書こうとする態度を養うことにつながり、そのことが「書く楽しさや喜びを味わう」ことにつながると考える。生活科などの他の教科等との関連を図り、「人とのつながり」をもつ活動を取り入れることで、児童の文字を書く目的がふくらんでいくと考える。そして、「伝えたい人」に対する思いをもつことにより、より「進んで書こう」「正しく丁寧に書こう」という意欲が高まっていくと考える。

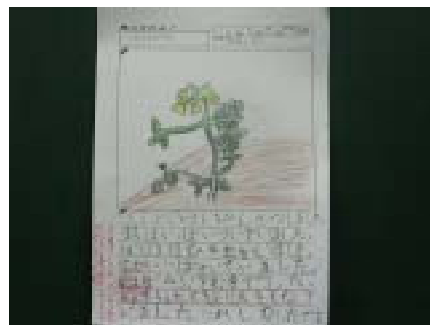
児童の思いがふくらみ、進んで文字を書こうとする意欲を高めるために、次のような手だてを考えた。

他の教科等との関連や日常化への発展

○生活科等他の教科や領域と関連する活動

学校行事や生活科等他教科と関連して、招待状や手紙を書く活動を積極的・計画的に取り入れることにより、友だちに、下級生に、またお世話になった方等に自分の「思い」を込めて、進んで文字を書いてみようという意欲を高めていく。

招待状（１年生へ，お家の人へ）	
年賀状（友だちへ，親戚の人へ）	
お礼のお手紙（ボランティア先生へ，６年生へ）	
生き物・植物「そだてよう」カード	
学校・町探検「見つけたよ」カード	など



○児童の日常での書く活動

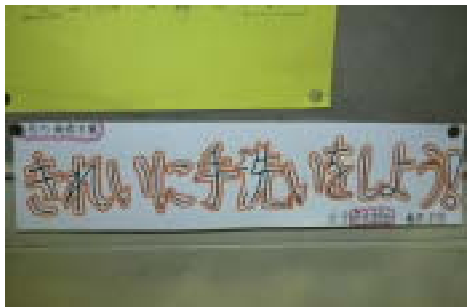
児童の日常では，教科等の学習活動以外にも，記録したり考えたりしたことを書く活動は多くある。そこで，書写で学習したことを生かしていくために，さまざまな日常の書く活動の場をとらえ指導していくことが児童の書写力の定着につながる考える。

連絡帳，日記
給食のメニュー書き，お知らせ，メモ
など

環境の整備

○掲示物

児童の身の回りに見える掲示物に書かれている文字も正しくわかりやすく表現したものをを用い，児童が正しく整った文字を書こうという気持ちを高めていく。また，日本の伝統的な書道文化に触れることができるように，額や掛け軸などを掲示することも効果的である。



○筆記用具の整備

いろいろな種類の筆記用具を用意し，いつでも児童が自由に選んで使えるようにする。そして，筆記用具の特性を理解し，用途にあった筆記用具を選んで書くことができるようにする。